蚊に刺されないように注意 ‼

●デング熱の流行状況

デング熱(Dengue fever)は、マラリアと同様に東南アジアなどの熱帯～亜熱帯地域に広く分布し、流行地域全体で年間約 1 億人の患者が発生しています。2006 年から大規模な流行がみられるようになっており、特に、東南アジア等流行地に旅行する場合は蚊対策を十分にしてください。

なお、日本国内で感染した例は、過去 60 年以上報告されていませんでしたが、2013 年には、ドイツ人渡航者が日本で感染したと疑われる事例が報告されました。

また、2014 年8月から 10 月にかけて、日本国内で感染した 160 名の患者発生が報告されています。

●病原体

フラビウイルス科フラビウイルス属デングウイルス。1～4 型の型があり、複数の型のウイルスに重複感染することもあります。

●どこから感染する？

マラリアと同様に、病原体を保有する蚊に刺されることで感染します。マラリアを媒介する蚊(ハマダラカ)と異なり、デング熱を媒介する蚊(ネッタイシマカ、ヒトスジシマカなど)は、空き缶、植木鉢の水受け、古タイヤなどに溜まった水でも発生するため都市部でもみられ、日中でも活動することもあり、マラリアよりも注意が必要です。

●予防方法は？

蚊に刺されないようにすることが唯一の予防方法です。

蚊はデング熱の他に、マラリア、ウエストナイル熱などの感染症を媒介しますので、蚊が多く発生する夕方から夜間にかけて外出する際には、虫除け剤や蚊取り線香の使用、長袖・長ズボンの着用等により、蚊に刺されないように注意しましょう。

長期の滞在の場合は、蚊帳を使用すると効果的です。

●症状

2～15 日、多くは 3～7 日の潜伏期の後、発熱(38～40℃)が 2～8 日続きます。発症後 3～4 日後から発しんが現れ、体幹から始まり四肢を中心にみられるようになります。発熱時には、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛を伴います。

デング熱の死亡率は 1%以下ですが、重症例は「デング出血熱(Dengue haemorrhagic fever)」と呼ばれ、皮下、鼻腔、歯肉などから出血がみられ、死亡率も 10%と高くなります。

●治療

特効薬はなく、対症療法となります。

●感染症法での取扱い

4類感染症に指定されていて、症状や所見および病原体、血清学的に診断した医師は直ちに最寄の保健所に届け出る事になっています。